

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 11 月 20 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	柴田翔平

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
マレーシア コタキナバル スカウ
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
JSPS Core-to-Core Programme, 7 th International Workshop on Tropical Biodiversity Conservation Focusing on Large Animal Studies
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 10 月 15 日 ~ 平成 30 年 10 月 21 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
サバ大学
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
スケジュール 10/15 関西国際空港集合、コタキナバルへ移動 10/16 サバ大学にてワークショップ・ポスター発表、 10/17 サバ大学にてワークショップ 10/18 スカウへ移動、リバークルーズ 10/19 NGO 訪問・植林、リバークルーズ 10/20 コタキナバルへ移動 10/21 帰国 本渡航では、サバ大学で行われた JSPS Core-to-Core Programme, 7 th International Workshop on Tropical Biodiversity Conservation Focusing on Large Animal Studies に参加し、ポスター発表を行った。 二日目・三日目に行われたワークショップは、 1. Human-Animal conflicts 2. Animal Ecology, Behavior and Conservation 3. Connection between Wild and Captivity の三つのセクションで構成されていた。自身の研究に関するポスター発表では、他の研究者の方から行動データの解析方法や、ホルモン分析の手法など、メソッドに関する質問や助言をいただいた。今後の修士研究をまとめる上で大いに参考になった。他の研究者の発表では、自然と人間の共存や、生物の保全に関するテーマのものが多く、マレーシアをはじめとするアジアで行われている保全活動について学ぶ貴重な機会であった。 四日目・五日目に行ったリバークルーズでは、キナバタンガン川に生息する多種多様な動物を観察する事ができた。霊長類では、テングザル、スローロリス、多数のカニクイザルを観察できた。リバークルーズで目にした多くの動物たちからは、川の周辺には豊かな森林が存在しているように思われたが、五日目の NGO 訪問で、船からは見えない場所ではプランテーション開発のための森林伐採が行われ、森林面積が減少していることを学んだ。NGO が主な活動の一つとして行っている植林も体験させていただき、その作業の大変さについても身をもって知る事が出来た。何よりも印象に残ったのは、植林作業のためのスタッフとしてその地域の女性住民が雇われていることであった。地域の女性を雇用することはその地域の経済的支援に繋がるだけでなく、なぜその NGO の活動が重要であるかを地域住民に伝えることができる。また、近隣の村と良好な関係を維持しておくことも、その地で森林保護活動を行う上では非常に重要である。国外の人間が生物保護のための活動を行う上では、様々な配慮が必要になることを学んだ。 また、実習全体を通して、東京農工大学や岐阜大学等、他大学で研究を行っている大学院生と交流することができた。これまで京都大学以外の国内の学生の研究について知る機会はあまりなかったため、互いの研究生活について話をしたことはとても新鮮な経験であった。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



写真. 1 集合写真



写真. 2 リバークルーズ



写真. 3 マレーウオミミズク

6. その他 (特記事項など)

本渡航は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。野生動物研究センター幸島司郎教授をはじめとする同行者の皆様、その他参加者の皆様に感謝申し上げます。